

(様式第10)

日医大病付(庶)第452号  
令和6年10月4日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人日本医科大学  
理事長 坂本 篤裕

日本医科大学付属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒113-8602 東京都文京千駄木一丁目1番5号
氏名	学校法人日本医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

日本医科大学付属病院
------------

3 所在の場所

〒113-8603 東京都文京千駄木一丁目1番5号
電話( 03 ) 3822 - 2131

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科								有
内科と組み合わせた診療科名等								
<input type="radio"/>	1呼吸器内科		2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科	
	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科	
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		<input type="radio"/>	11リウマチ科		

診療実績

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有		
外科と組み合わせた診療科名			
○ 1呼吸器外科	○ 2消化器外科	○ 3乳腺外科	4心臓外科
5血管外科	○ 6心臓血管外科	○ 7内分泌外科	8小児外科
診療実績			

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○ 1精神科	○ 2小児科	○ 3整形外科	○ 4脳神経外科
○ 5皮膚科	○ 6泌尿器科	○ 7産婦人科	8産科
9婦人科	○ 10眼科	○ 11耳鼻咽喉科	○ 12放射線科
13放射線診断科	14放射線治療科	○ 15麻酔科	○ 16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	
歯科と組み合わせた診療科名		
1小児歯科	2矯正歯科	3歯科口腔外科
歯科の診療体制		
口腔科(周術期)		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 脳神経内科	2 消化器・肝臓内科	3 糖尿病・内分泌代謝内科	4 老年内科	5 漢方内科
6 形成外科	7 リハビリテーション科	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
27	0	0	0	850	877

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	674	17.8	691.8	看護補助者	80	診療エックス線技師	0
歯科医師	3	0.3	3.3	理学療法士	29	臨床検査技師	99
薬剤師	84	0	84	作業療法士	10	衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	9	その他	0
助産師	37	0	37	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	1110	7.6	1117.6	臨床工学士	41	医療社会事業従事者	0
准看護師	1	0	0	栄養士	2	その他の技術員	21
歯科衛生士	4	0.1	4.1	歯科技工士	0	事務職員	221
管理栄養士	13	0	13	診療放射線技師	70	その他の職員	31

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	56	眼科専門医	10
外科専門医	51	耳鼻咽喉科専門医	9
精神科専門医	8	放射線科専門医	18
小児科専門医	12	脳神経外科専門医	14
皮膚科専門医	4	整形外科専門医	14
泌尿器科専門医	9	麻酔科専門医	18
産婦人科専門医	17	救急科専門医	22
		合計	262

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 汲田 伸一郎 ) 任命年月日 平成 29 年 2 月 1 日

医療安全管理部部长、医療安全管理責任者、医療安全管理委員会委員長  
 平成26年4月1日から平成29年1月31日

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	714.3 人	0 人	714.3 人
1日当たり平均外来患者数	1,686 人	22.9 人	1,708.9 人
1日当たり平均調剤数	17,454.5		剤
必要医師数	120		人
必要歯科医師数	1.1		人
必要薬剤師数	24		人
必要(准)看護師数	343		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要		
集中治療室	4618.17 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	96 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー 有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	192.558 台	m <sup>2</sup> 台	病床数 11 床
医薬品情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床面積 共用する室名	24.56 m <sup>2</sup>		
化学検査室	496.42 m <sup>2</sup>		(主な設備)	検体前処理分注機、免疫化学分析装置、血液凝固測定装置	
細菌検査室	175.85 m <sup>2</sup>		(主な設備)	血液培養装置、微生物分類同定分析装置、安全キャビネット等	
病理検査室	468.77 m <sup>2</sup>		(主な設備)	安全キャビネット、凍結切片作成装置、低温フリーザー等	
病理解剖室	80.1 m <sup>2</sup>		(主な設備)	感染対策解剖台、肉眼撮影装置等、ホルマリン送液装置等	
研究室	1,503.34 m <sup>2</sup>		(主な設備)	病理組織学標本作製装置、細胞培養装置、オートクレーブ等	
講義室	886.35 m <sup>2</sup>		室数	4 室	収容定員 620 人
図書室	1,323.70 m <sup>2</sup>		室数	6 室	蔵書数 60,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	113.4	%	逆紹介率	70.0	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		20,241	人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		15,959	人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		5,599	人	
	D: 初診の患者の数		22,794	人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
長島 隆	東洋大学	○	哲学、倫理学を専門とし、医療の公共性や医療倫理、医療現場における情報問題と情報倫理等に関する論文等を発表している。	無	1
小泉 博明	文京学院大学		日本思想や生命倫理教育を専門とし、「病における人間学」、「病者への眼差し」等をキーワードに、多数の論文を発表している。	無	1
櫻田 晋太郎	弁護士		医療問題弁護団に所属し、医療と人権をテーマに医療事件に関する調査、交渉、訴訟事件を多く取り扱っている。また、薬害肝炎弁護団に所属し、薬害の再発防止、個別救済等の取り組みにも力を入れている。	無	1
豊田 郁子	NPO法人「架け橋」		自身が医療事故で子息を亡くした経験から、患者・家族と医療者間の対話の重要性を痛感し、患者の立場を代表する者として医療安全に関わる講演活動や公的な委員を務め、NPOでは医療対話推進者の養成に携わっている。	無	2
近藤 幸尋	日本医科大学付属病院		若手医師の指導及び中央手術部部長としての臨床現場の経験等より、医療安全監査委員として適任である。	有	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	学校法人のホームページにて公表





(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	修正型通電療法	取扱患者数	46
当該医療技術の概要 全身麻酔及び筋弛緩薬使用下でパルス波治療器を用いて通電することで脳神経細胞を刺激し、うつ病や緊張病等の病状を改善させる治療法。当院精神神経科は都内有数の治療実績があり、中高年の身体合併症のある患者に積極的に使用し、高い改善率を示している。			
医療技術名	レケンピを用いたアルツハイマー病治療	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 アルツハイマー病による認知症ならびに軽度認知障害を対象とし、脳内に蓄積したアミロイドβタンパク質を除去する効果を持つアミロイドβ凝集体モノクローナル抗体を2週間に1度点滴静注する治療法。			
医療技術名	経皮的中隔心筋焼灼術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 薬剤抵抗性の左室内圧較差を認める閉塞性肥大型心筋症に対する経カテーテル的治療法			
医療技術名	低心機能症例における難治性心室性不整脈に対するカテーテルアブレーション	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 電氣的除細動抵抗性の致死性心室性不整脈Electrical Storm 状態における緊急・準緊急カテーテルアブレーション			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	4
取り扱い患者数の合計(人)	75

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	51	ベーチェット病	74
2	筋萎縮性側索硬化症	13	52	特発性拡張型心筋症	38
3	脊髄性筋萎縮症	1	53	肥大型心筋症	71
4	原発性側索硬化症	0	54	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	11	55	再生不良性貧血	32
6	パーキンソン病	131	56	自己免疫性溶血性貧血	4
7	大脳皮質基底核変性症	2	57	発作性夜間ヘモグロビン尿症	8
8	ハンチントン病	0	58	特発性血小板減少性紫斑病	57
9	神経有棘赤血球症	0	59	血栓性血小板減少性紫斑病	2
10	シャルコー・マリー・トゥース病	5	60	原発性免疫不全症候群	12
11	重症筋無力症	77	61	IgA 腎症	43
12	先天性筋無力症候群	0	62	多発性嚢胞腎	37
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	69	63	黄色靱帯骨化症	1
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	22	64	後縦靱帯骨化症	13
15	封入体筋炎	1	65	広範脊柱管狭窄症	2
16	クドウ・深瀬症候群	0	66	特発性大腿骨頭壊死症	25
17	多系統萎縮症	9	67	下垂体性ADH分泌異常症	17
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	22	68	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19	ライソゾーム病	3	69	下垂体性PRL分泌亢進症	8
20	副腎白質ジストロフィー	0	70	クッシング病	9
21	ミトコンドリア病	2	71	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	25	72	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	27
23	プリオン病	0	73	下垂体前葉機能低下症	90
24	亜急性硬化性全脳炎	0	74	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	3
25	進行性多巣性白質脳症	0	75	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	76	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27	特発性基底核石灰化症	1	77	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	32	78	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	79	サルコイドーシス	80
30	遠位型ミオパチー	0	80	特発性間質性肺炎	35
31	ベスレムミオパチー	1	81	肺動脈性肺高血圧症	11
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	82	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	83	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	8
34	神経線維腫症	23	84	リンパ管筋腫症	1
35	天疱瘡	7	85	網膜色素変性症	16
36	表皮水疱症	0	86	バッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬(汎発型)	6	87	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	25	88	原発性胆汁性肝硬変	40
39	中毒性表皮壊死症	19	89	原発性硬化性胆管炎	5
40	高安動脈炎	14	90	自己免疫性肝炎	30
41	巨細胞性動脈炎	9	91	クローン病	70
42	結節性多発動脈炎	5	92	潰瘍性大腸炎	198
43	顕微鏡的多発血管炎	23	93	好酸球性消化管疾患	3
44	多発血管炎性肉芽腫症	24	94	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	26	95	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	13	96	腸管神経節細胞僅少症	0
47	パージャヤー病	7	97	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	6	98	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	158	99	コストロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	146	100	チャージ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

NO	疾患名	患者数		疾患名	患者数
101	全身性強皮症	235	151	クリオピリン関連周期熱症候群	0
102	混合性結合組織病	44	152	全身型若年性特発性関節炎	17
103	シェーグレン症候群	47	153	TNF受容体関連周期性症候群	0
104	成人スチル病	14	154	非典型溶血性尿毒症症候群	0
105	再発性多発軟骨炎	4	155	ブラウ症候群	0
106	先天性ミオパチー	0	156	家族性良性慢性天疱瘡	3
107	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	157	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	9
108	筋ジストロフィー	5	158	特発性後天性全身性無汗症	1
109	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	159	眼皮皮膚白皮症	0
110	遺伝性周期性四肢麻痺	0	160	肥厚性皮膚骨膜炎	0
111	アトピー性脊髄炎	0	161	弾性線維性仮性黄色腫	0
112	脊髄空洞症	0	162	マルファン症候群	4
113	脊髄髄膜瘤	0	163	エーラス・ダンロス症候群	13
114	アイザックス症候群	0	164	メンケス病	0
115	遺伝性ジストニア	0	165	オクシピタル・ホーン症候群	0
116	神経フェリチン症	0	166	ウィルソン病	0
117	脳表ヘモジデリン沈着症	0	167	低ホスファターゼ症	0
118	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	168	VATER症候群	0
119	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1	169	那須・ハコラ病	0
120	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	170	ウィーバー症候群	0
121	ペリー症候群	0	171	コフィン・ローリー症候群	0
122	前頭側頭葉変性症	0	172	有馬症候群	0
123	ピッカーstaff脳幹脳炎	0	173	モワット・ウィルソン症候群	0
124	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	174	ウィリアムズ症候群	0
125	先天性無痛無汗症	0	175	ATR-X症候群	0
126	アレキサンダー病	0	176	クルーゾン症候群	0
127	先天性核上性球麻痺	0	177	アペール症候群	0
128	メビウス症候群	0	178	ファイファー症候群	0
129	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	179	アントレー・ピクスラー症候群	0
130	アICALディ症候群	0	180	コフィン・シリス症候群	0
131	片側巨脳症	0	181	ロスマンド・トムソン症候群	0
132	限局性皮質異形成	0	182	歌舞伎症候群	0
133	神経細胞移動異常症	0	183	多脾症候群	0
134	先天性大脳白質形成不全症	0	184	無脾症候群	0
135	ドラベ症候群	0	185	鰓耳腎症候群	0
136	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	186	ウェルナー症候群	2
137	ミオクロニー欠神てんかん	0	187	コケイン症候群	0
138	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	188	プラダー・ウィリ症候群	0
139	レノックス・ガストー症候群	0	189	ソトス症候群	0
140	ウエスト症候群	0	190	ヌーナン症候群	0
141	大田原症候群	0	191	ヤング・シンプソン症候群	0
142	早期ミオクロニー脳症	0	192	1p36欠失症候群	0
143	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	193	4p欠失症候群	0
144	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	194	5p欠失症候群	0
145	環状20番染色体症候群	0	195	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
146	ラスムッセン脳炎	0	196	アンジェルマン症候群	0
147	PCDH19関連症候群	0	197	スミス・マギニス症候群	0
148	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	198	22q11.2欠失症候群	1
149	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	199	エマヌエル症候群	0
150	ランドウ・クレフナー症候群	0	200	脆弱X症候群関連疾患	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

NO	疾患名	患者数	NO	疾患名	患者数
201	レット症候群	0	251	脆弱X症候群	0
202	スタージ・ウェーバー症候群	0	252	総動脈幹遺残症	0
203	結節性硬化症	2	253	修正大血管転位症	1
204	色素性乾皮症	0	254	完全大血管転位症	0
205	先天性魚鱗癬	0	255	単心室症	1
206	左心低形成症候群	1	256	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
207	三尖弁閉鎖症	3	257	システロール血症	0
208	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	258	タンジール病	0
209	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	259	原発性高カイトミクロン血症	2
210	ファロー四徴症	0	260	脳髄黄色腫症	0
211	両大血管右室起始症	0	261	無βリポタンパク血症	0
212	エプスタイン病	0	262	脂肪萎縮症	0
213	アルポート症候群	0	263	家族性地中海熱	1
214	ギャロウェイ・モフト症候群	0	264	高IgD症候群	0
215	急速進行性糸球体腎炎	3	265	中條・西村症候群	0
216	抗糸球体基底膜腎炎	0	266	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
217	一次性ネフローゼ症候群	57	267	慢性再発性多発性骨髄炎	0
218	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	3	268	強直性脊椎炎	11
219	紫斑病性腎炎	6	269	進行性骨化性線維異形成症	0
220	先天性腎性尿崩症	0	270	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
221	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	271	骨形成不全症	0
222	オスラー病	2	272	タナトフォリック骨異形成症	0
223	閉塞性細気管支炎	0	273	軟骨無形成症	0
224	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	274	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
225	肺胞低換気症候群	0	275	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
226	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	276	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
227	カーニー複合	0	277	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
228	ウォルフラム症候群	0	278	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
229	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	279	先天性赤血球形成異常性貧血	0
230	副甲状腺機能低下症	0	280	後天性赤芽球癆	1
231	偽性副甲状腺機能低下症	0	281	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
232	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	282	ファンコニ貧血	0
233	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	283	遺伝性鉄芽球性貧血	0
234	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	284	エプスタイン症候群	0
235	フェニルケトン尿症	0	285	自己免疫性出血病XIII	3
236	高チロシン血症1型	0	286	クロンカイト・カナダ症候群	0
237	高チロシン血症2型	0	287	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
238	高チロシン血症3型	0	288	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	0
239	メープルシロップ尿症	0	289	総排泄腔外反症	0
240	プロピオン酸血症	0	290	総排泄腔遺残	0
241	メチルマロン酸血症	0	291	先天性横隔膜ヘルニア	0
242	イノ吉草酸血症	0	292	乳幼児肝巨大血管腫	0
243	グルコーストランスポーター1欠損症	0	293	胆道閉鎖症	1
244	グルタル酸血症1型	0	294	アラジール症候群	0
245	グルタル酸血症2型	0	295	遺伝性腭炎	0
246	尿素サイクル異常症	0	296	嚢胞性線維症	0
247	リジン尿性蛋白不耐症	0	297	IgG4関連疾患	17
248	先天性葉酸吸収不全	0	298	黄斑ジストロフィー	0
249	ポルフィリン症	0	299	レーベル遺伝性視神経症	0
250	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	300	アッシャー症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

NO	疾患名	患者数		疾患名	患者数
301	筋型糖原病	0	316	若年発症型両側性感音難聴	0
302	肝型糖原病	0	317	遅発性内リンパ水腫	0
303	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	318	好酸球性副鼻腔炎	68
304	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
305	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
306	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
307	先天異常症候群	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
308	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
309	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
310	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
311	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
312	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	2
313	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
314	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
315	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャスルマン病	9

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	331
合計患者数(人)	2,617

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 医療DX推進体制整備加算	・ 感染防止対策加算対策向上加算、指導強化加算
・ 救急医療管理加算	・ 患者サポート体制充実加算
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・ 歯科外来診療環境体制加算	・ ハイリスク妊娠管理加算
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ ハイリスク分娩管理加算
・ 歯科外来診療医療安全対策加算	・ 後発医薬品使用体制加算
・ 歯科外来診療感染対策加算	・ 病棟薬剤業務実施加算
・ 特定機能病院入院基本料	・ データ提出加算
・ 超急性期脳卒中加算	・ 入退院支援加算
・ 診療録管理体制加算	・ 認知症ケア加算
・ 医師事務作業補助体制加算	・ せん妄ハイリスク患者ケア加算
・ 急性期看護補助体制加算	・ 精神疾患診療体制加算
・ 看護職員夜間配置加算	・ 精神科急性期医師配置加算
・ 無菌治療室管理加算	・ 排尿自立支援加算
・ 放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・ 地域医療体制確保加算
・ 緩和ケア診療加算	・ 救命救急入院料1
・ 精神科身体合併症管理加算	・ 救命救急入院料4
・ 精神科リエゾンチーム加算	・ 特定集中治療室管理料
・ 栄養サポートチーム加算	・ ハイケアユニット入院医療管理料
・ 医療安全対策加算	・ 新生児特定集中治療室管理料
・ 感染防止対策加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 抗菌薬適正使用支援加算	・ 小児入院医療管理料
・ 摂食障害入院医療管理加算	・ 短期滞在手術等基本料1

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 外来栄養食事指導料	・ 周術期薬剤管理加算
・ 遠隔モニタリング加算(ペースメーカー指導管理料)	・ 病理診断管理加算
・ 糖尿病合併症管理料	・ 移植後患者指導管理料
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 慢性腎臓病透析予防指導管理料
・ がん患者指導管理料	・ 総合医療管理加算(歯科疾患管理料)
・ 外来緩和ケア管理料	・ がん治療連携計画策定料
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 排尿自立指導料
・ 小児運動器疾患指導管理料	・ ハイリスク妊産婦共同管理料
・ 乳腺炎重症化予防・ケア指導料	・ ハイリスク妊産婦連携指導料1
・ 婦人科特定疾患治療管理料	・ ハイリスク妊産婦連携指導料2
・ 院内トリアージ実施料	・ こころの連携指導料
・ 腎代替療法指導管理料	・ 肝炎インターフェロン治療計画料
・ 一般不妊治療管理料	・ 薬剤管理指導料
・ 生殖補助医療管理料	・ 検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・ 二次性骨折予防継続管理料	・ 医療機器安全管理料1
・ 精神科退院時共同指導料	・ 医療機器安全管理料2
・ 救急搬送看護体制加算	・ 医療機器安全管理料(歯科)
・ 外来放射線照射診療料	・ 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
・ 外来腫瘍化学療法診療料	・ 持続血糖測定器加算
・ 連携充実加算	・ 重症患者搬送加算
・ がん薬物療法体制充実加算	・ 救急患者連携搬送料
・ ニコチン依存症管理料	・ 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料

・ 相談支援加算(療養・就労両立支援指導料)	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ 遺伝学的検査	・ 単線維筋電図
・ 骨髄微小残存病変量測定	・ 神経学的検査
・ 染色体検査の注2に規定する基準	・ 補聴器適合検査
・ BRCA1/2遺伝子検査	・ ロービジョン検査判断料
・ がんゲノムプロファイリング検査	・ 小児食物アレルギー負荷検査
・ 先天性代謝異常症検査	・ 内服・点滴誘発試験
・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ センチネルリンパ節生検(片側)
・ ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・ 検体検査管理加算(I)
・ 口腔細菌定量検査	・ 検体検査管理加算(IV)
・ 歯科治療時医療管理料	・ 国際標準検査管理加算
・ 口腔粘膜処置	・ 画像診断管理加算3
・ 遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・ 遺伝カウンセリング加算
・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・ 画像診断管理加算1
・ 胎児心エコー法	・ 画像診断管理加算4
・ ヘッドアップティルト試験	・ 遠隔画像診断
・ 皮下連続式グルコース測定	・ CT撮影及びMRI撮影
・ 小児鎮静下MRI撮影加算	・ 冠動脈CT撮影加算
・ 頭部MRI撮影加算	・ 血流予備量比コンピューター断層撮影
・ 全身MRI撮影加算	・ 外傷全身CT加算
・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ 心臓MRI撮影加算
・ 外来化学療法加算1	・ 乳房MRI撮影加算
・ 無菌製剤処理料	・ エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
・ 心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・ 人工腎臓
・ 経気管支凍結生検法	・ 導入期加算
・ 運動器リハビリテーション料(I)	・ 硬膜外自家血注入

<ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸器リハビリテーション料(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>がん患者リハビリテーション料</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下肢末梢動脈疾患指導管理加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>集団コミュニケーション療法料</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>磁気による膀胱等刺激法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ストーマ合併症加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>口腔粘膜処置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>療養生活継続支援加算(通院・在宅精神療法)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>網膜再建術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>救急患者精神科継続支援料</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻鏡手術)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療保護入院等診療料</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレンス療法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経外耳道的内視鏡下鼓室形成術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急穿頭血腫除去術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CAD/CAM冠</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>椎間版内酵素注入療法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>皮膚移植術(死体)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)</li> <li>脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの。))</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>内皮移植加算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>角結膜悪性腫瘍切除手術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>内視鏡的逆流防止粘膜切除術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経皮的僧帽弁クリップ術</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>磁気ナビゲーション加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経皮的中隔心筋焼灼術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>内視鏡的小腸ポリープ切除術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)、鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>鏡視下喉頭悪性腫瘍手術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内視鏡下筋層切開術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経カテーテル大動脈弁置換術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下総胆管拡張症手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下膣式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)に限る。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下仙骨腫固定術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放射線治療専任加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 補助人工心臓</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下子宮瘢痕修復術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経皮的下肢動脈形成術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生体部分肝移植術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バルーン閉塞下経静脈的塞栓術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下膵中央切除術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下膵頭腫瘍切除術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下肝切除術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 尿道狭窄グラフト再建術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人工尿道括約筋植込・置換術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 輸血管理料 I</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 輸血適正使用加算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下副腎摘出手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出手術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外来放射線治療加算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 精巣温存手術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高エネルギー放射線治療</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠経部切開によるもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回線量増加加算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術に対する乳房切除術)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 強度変調放射線治療(IMRT)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体外式膜型人工肺管理料</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 画像誘導放射線治療加算 (IGRT)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体外照射呼吸性移動対策加算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 画像誘導密封小線源治療加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定位放射線治療</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 悪性腫瘍病理組織標本加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラウン・ブリッジ維持管理料</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レーザー機器加算の施設基準</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 麻酔管理料(Ⅰ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 麻酔管理料(Ⅱ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯周組織再生誘導手術</li> </ul>



## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
逐次近似法を用いて上部消化管造影検査での早期胃癌の描出能を向上する	城 正樹	放射線科	500,000	補	文部科学省
肺線維化病態における血漿中cell free DNAの探索研究	猪俣 稔	呼吸器内科学	300,000	補	文部科学省
悪性胸膜中皮腫における新規治療戦略の探索	中山 幸治	呼吸器内科学	100,000	補	文部科学省
日本人に向けた嗅覚トレーニングの開発	吉野 綾穂	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	400,000	補	文部科学省
ヒト皮膚線維芽細胞に対する圧刺激の感知機構の解明	松永 宜子	形成外科・再建外科・美容外科	200,000	補	文部科学省
くも膜下出血はなぜ日本人に多いか？:脳血管障害をきたす体内細菌叢の国際間比較研究	森田 明夫	脳神経外科	2,700,000	補	文部科学省
2型糖尿病発症における膵β細胞の脂肪適応と脂肪毒性についての栄養生理学的検証	浅井 明	糖尿病・内分泌代謝内科	1,200,000	補	文部科学省
新規ヒストン修飾解析手法を用いた白色脂肪細胞分化過程のエピゲノム変化の解析	稲垣 恭子	糖尿病・内分泌代謝内科	900,000	補	文部科学省
本邦における脳梗塞関連遺伝子座と臨床的特徴に関する検討	下山 隆	脳神経外内科	400,000	補	文部科学省
川崎病冠動脈瘤に対する脂肪由来間葉系幹細胞(ADSC)を用いた細胞療法の開発	植田 高弘	小児科	1,200,000	補	文部科学省
成人川崎病既往者の早期動脈硬化発症リスクの解明	深澤 隆治	小児科	800,000	補	文部科学省
エキシマレーザーの色素細胞活性化機序の解明	船坂 陽子	皮膚科	600,000	補	文部科学省
神経体液因子を標的とした術中心筋保護法の開発	山田 直輝	心臓血管外科	500,000	補	文部科学省
microRNAを介した全身麻酔作用機序の検討	石川 真士	麻酔科・ペインクリニック	1,100,000	補	文部科学省
麻酔薬による癌細胞生理への影響の検討	岩崎 雅江	緩和ケア科	1,000,000	補	文部科学省
南海トラフ地震における災害医療対応シミュレーション・システムの開発	布施 明	救命救急科	1,000,000	補	文部科学省
分子生体制御学的・行動解析学的アプローチによる内耳性難聴の発症メカニズムの解明	松延 毅	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	600,000	補	文部科学省
硝子体手術に伴う網膜酸化ストレス傷害に対する水素含有眼内灌流液の効果	高橋 浩	眼科	1,100,000	補	文部科学省
生態レドックス評価による早期NASH病態の解明と非侵襲的診断法の開発	中田 亮輔	消化器外科	600,000	補	文部科学省
心筋症における電気解剖学的マッピングを用いた心筋生検についての検討	林 洋史	循環器内科	100,000	補	文部科学省
ヒト正常細胞におけるEML4-ALKの生物学的役割の検討	松本 優	呼吸器内科	1,200,000	補	文部科学省
出血性ショック後肺障害発生メカニズムにおけるmicroRNAの役割	倉橋 和嘉子	救命救急科	800,000	補	文部科学省
血中DNA分解酵素活性を用いた絞扼性腸閉塞の診断	岩井 拓磨	消化器外科	800,000	補	文部科学省
ARDS動物モデルにおける経肺熱希釈法を用いた新たなモニタリング法の検討	遠藤 雄介	救命救急科	1,200,000	補	文部科学省
細胞外miR-21を標的とした変形性関節症に対する疾患修飾性鎮痛薬の検討	星川 直哉	整形外科・リウマチ外科	1,300,000	補	文部科学省
嚥下障害に対する新たな臨床展開 - 食道刺激と高解像度インピーダンスマンOMETRY-	青柳 陽一郎	リハビリテーション科	2,700,000	補	文部科学省
新規アディポネクチン受容体結合タンパク質の機能解析と生活習慣病治療への応用	岩部 真人	糖尿病・内分泌代謝内科	4,500,000	補	文部科学省
診療参加型実習、EPOC2に対応する医学生、研修医の外科手技自習プログラムの検討	清水 哲也	消化器外科	300,000	補	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
2型糖尿病の新規病理仮説:膵β細胞でのCD36発現異常とインスリン分泌不全	長尾 元嗣	糖尿病・内分泌代謝内科	1,200,000	補	文部科学省
乳癌の術前内分泌療法によるレスポンスガイドセラピーの臨床導入へ向けた研究	武井 寛幸	乳腺科	1,000,000	補	文部科学省
固形癌に対する新しい光線力学免疫療法の開発	園川 卓海	呼吸器外科	600,000	補	文部科学省
新型高浄環境技術(CUSP)の高齢者総合医療への応用	安武 正弘	総合診療科	500,000	補	文部科学省
統合失調症の概念形成および記憶統合障害に関する神経基盤の計算論的検討	松本 有紀子	精神神経科	500,000	補	文部科学省
虚血性心疾患に対する半定量的心筋血流SPECTでの心筋血流予備能の予測法の開発	福嶋 善光	放射線科	400,000	補	文部科学省
放射線治療による肺機能低下を換気血流SPECT/CTとIMRTで低減可能か?	前林 勝也	放射線治療科	1,400,000	補	文部科学省
バイオインフォマティクスを用いた非コードDNA解析による若年突然死の発症機序解明	村田 広茂	循環器内科	400,000	補	文部科学省
インシリコモデルとテンソル心電図解析による早期再発症候群の不整脈リスク分析	岩崎 雄樹	循環器内科	1,200,000	補	文部科学省
肺線維化病態の新規治療戦略一制御性遺伝子吸入と免疫担当細胞のクロストークの解明一	神尾 孝一郎	呼吸器内科	1,300,000	補	文部科学省
抗MDA5抗体陽性間質性肺疾患の病態に関する細胞内シグナル伝達経路探索	五野 貴久	リウマチ・膠原病内科	1,100,000	補	文部科学省
間葉系組織からの骨芽細胞分化に着目した強皮症石灰沈着症の機序解明と治療標的探索	白井 悠一郎	リウマチ・膠原病内科	1,000,000	補	文部科学省
循環DNA, DNaseバランスからみた術後感染症およびその腫瘍学的予後悪化予測	松田 明久	消化器外科	800,000	補	文部科学省
細胞外小胞を用いた空間的・時間的不均一性の解明	山田 岳史	消化器外科	1,000,000	補	文部科学省
脾臓の抗腫瘍作用メカニズムの解明	吉田 寛	消化器外科	1,100,000	補	文部科学省
消化管神経内分泌腫瘍の分子生物学的解析と新規治療薬の開発	進士 誠一	消化器外科	1,100,000	補	文部科学省
多血小板血漿と生分解性徐放化ゲルを用いた新しい心筋再生治療の開発	村田 智洋	心臓血管外科	1,100,000	補	文部科学省
心外膜植込み型プラットフォームを利用した心臓再生医療の確立	宮城 泰雄	心臓血管外科	1,200,000	補	文部科学省
血管内腔側から徐々に吸収される階層構造を持つ生体吸収性動脈グラフトの開発	宮地 秀樹	循環器内科	1,000,000	補	文部科学省
機械学習によるCOVID-19のクラスタリングと個別化医療に向けた探索的研究	三宅 のどか	救命救急科	900,000	補	文部科学省
Egr-1のハプロ不全による腎虚血再灌流障害に対する腎保護作用に関する研究	新井 正徳	救命救急科	800,000	補	文部科学省
開放骨折への即時骨接合+局所抗生剤高濃度持続投与方法の感染率低下、遊離骨片温存作用	佐藤 陽介	救命救急科	200,000	補	文部科学省
脳動脈瘤の臨床表現型に着目したRNF213の網羅的解析	村井 保夫	脳神経外科	480,000	補	文部科学省
慢性子宮内膜炎におけるエピジェネティック変容とプロゲステロン不応機序の解明	桑原 慶充	女性診療科・産科	800,000	補	文部科学省
新たな視点から調節卵巣刺激への反応性を予測する血中オステオポンチンの測定意義	中尾 仁彦	女性診療科・産科	1,300,000	補	文部科学省
新規治療法開発を指向した子宮内膜症におけるアラミンとその受容体の免疫学的解析	池田 真利子	女性診療科・産科	700,000	補	文部科学省
ヒリンパ管内皮細胞に対する定圧刺激の影響と作用機序の解明	高田 弘弥	形成外科・再建外科・美容外科	1,100,000	補	文部科学省
骨格筋他動的伸長刺激による筋力増強と栄養因子に関する分子生物学的検討	池田 聡	リハビリテーション科	1,000,000	補	文部科学省
画像診断と人工知能を用いた循環腫瘍細胞同定法の開発	武田 幸樹	消化器外科	600,000	補	文部科学省
抗腫瘍免疫応答による早期発症大腸癌・腺腫のリスクの層別化	秋元 直彦	消化器・肝臓内科	2,100,000	補	文部科学省
腎虚血再灌流障害に対するセボフルランのMicroRNA変化を介した保護効果の証明	山本 真記子	麻酔科・ペインクリニック	700,000	補	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
甲状腺機能障害に合併する頭蓋内血管狭窄の遺伝子変異と病態解析	亦野 文宏	脳神経外科	800,000	補	文部科学省
グラニューライシンは原因不明不育症のマーカーとなりうるか？ 流産防止法確立に向けて	市川 智子	女性診療科・産科	900,000	補	文部科学省
免疫学的アプローチによる早産におけるアラミンの機能解明	加藤 雅彦	女性診療科・産科	1,000,000	補	文部科学省
異常癒痕形成メカニズム解明と予防法・治療法開発 一日常生活動作の解析をもとに	土肥 輝之	形成外科・再建外科・美容外科	1,000,000	補	文部科学省
背景組織のプロテアーゼに着目したアミロイド沈着機序の解明	堂本 裕加子	病理診断科	1,800,000	補	文部科学省
膝外腫瘍による低血糖にインスリン様成長因子はどう関与するのか？	福田 いずみ	糖尿病・内分泌代謝内科	1,300,000	補	文部科学省
急性下肢虚血に対する新規血管内治療システム:革新的な遠隔塞栓予防システムの開発	上田 達夫	放射線科	1,200,000	補	文部科学省
Rhoキナーゼによる薬剤性肺障害モデルの樹立と治療法の解明	柏田 建	呼吸器内科	1,200,000	補	文部科学省
マクロファージの分子スイッチPI3K $\gamma$ によるメラノーマ微小環境の制御	佐伯 秀久	皮膚科	1,400,000	補	文部科学省
急性骨髄性白血病におけるミトコンドリア活性化の臨床的意義と新規標的治療の開発	山口 博樹	血液内科	1,100,000	補	文部科学省
DNMT3A変異陽性AMLに生じるG2/M期の遺伝子発現異常とその標的治療の開発	脇田 知志	血液内科	900,000	補	文部科学省
全身性強皮症患者皮膚トランスクリプトームを反映した包括的病態モデルの構築	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	1,600,000	補	文部科学省
scRNA-seq及びCITE-seq解析による強皮症特異的血管内皮前駆細胞の探索と治療応用	井関 ゆう子	リウマチ・膠原病内科	1,400,000	補	文部科学省
細胞診および血液検体を用いた新規甲状腺濾胞癌特異的マーカーによる術前分子診断	軸藺 智雄	内分泌外科	800,000	補	文部科学省
甲状腺低リスク乳頭癌のアクティブ・サーベイランスにおけるベスト・プラクティス探求	杉谷 巖	内分泌外科	1,100,000	補	文部科学省
APOA2アイソフォームを用いた膝切除術後の新たな膝外分泌機能バイオマーカーの開発	松下 晃	消化器外科	1,200,000	補	文部科学省
時計遺伝子に着目した疼痛睡眠関連機序の解析ー新たな疼痛治療戦略の確立に向けて	間瀬 大司	外科系集中治療科	1,100,000	補	文部科学省
マイクロ波びまん性脳損傷に対する病態可視化と集学的治療の開発	横堀 将司	救命救急科	200,000	補	文部科学省
外傷後臓器障害発生メカニズムの解明及び重度外傷の骨折治療タイミングの検討	平野 瞳子	救命救急科	1,200,000	補	文部科学省
敗血症患者における急速進行性脳萎縮とPICSやICU-AWとの関連性に関する研究	中江 竜太	救命救急科	900,000	補	文部科学省
空間的な遺伝子解析によるクロイド発生機序の解明と新規治療標的の導出	土佐 眞美子	形成外科・再建外科・美容外科	2,900,000	補	文部科学省
疾患特異的iPS細胞を用いたクロイドの病態解明と治療法の確立	江浦 重義	形成外科・再建外科・美容外科	2,400,000	補	文部科学省
救急外来における外国人患者の臨床的特徴に関する検討	須崎 真	救急診療科	400,000	補	文部科学省
ダイバーシティ推進に向けた低被曝アブレーション治療の有効性と安全性の検討	萩原 かな子	循環器内科	2,200,000	補	文部科学省
創傷治癒と血管移植における血管新生過程と、ペリサイトの役割の解明	友利 裕二	整形外科・リウマチ外科	1,900,000	補	文部科学省
特発性肺線維症合併肺癌に関連するCADM1、SPC25遺伝子変異の検討	福泉 彩	呼吸器内科	1,600,000	補	文部科学省
メタボロミクス解析を用いたHIF-PH阻害薬による造影剤腎症予防メカニズムの解明	谷 崇	腎臓内科	2,100,000	補	文部科学省
慢性腎臓病進行抑制のセノモルフィクスの開発 -SASPを制御して腎臓病を克服する	荒谷 紗絵	腎臓内科	1,900,000	補	文部科学省
キサントキシンオキシダーゼ阻害薬による腸管虚血再灌流障害の制御と機序解明	瀧口 徹	救命救急科	1,100,000	補	文部科学省
ロボット支援手術におけるデータ駆動型アプローチの導入と医療AIシステムの検証	赤塚 純	泌尿器科	1,800,000	補	文部科学省
再灌流達成後の血圧制御が急性期脳梗塞体積変化と長期転帰に及ぼす影響の解明	坂本 悠記	脳神経内科	500,000	補	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
2型糖尿病の新規病理仮説「CD36による膵島ホルモンの分泌攪乱」:ヒト膵島での検証	長尾 元嗣	糖尿病・内分泌代謝内科	11,900,000	補	文部科学省
『新しい生活様式』に即した環境因子の変化に伴う熱中症発症因子の検討	横堀 将司	救命救急科	18,372,000	委	厚生労働省
終末期医療から脳死下・心停止後臓器提供に関わる医療の評価に関する研究	横堀 将司	救命救急科	3,000,000	委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	伊藤 保彦	小児科	200,000	委	厚生労働省
原発性高脂血症に関する調査研究	稲垣 恭子	糖尿病・内分泌代謝内科	200,000	委	厚生労働省
臓器・組織移植医療における医療者の負担軽減、環境改善に資する研究	横堀 将司	救命救急科	300,000	委	厚生労働省
地域医療構想を踏まえた救急医療体制の充実に関する研究	横堀 将司	救命救急科	200,000	委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	200,000	委	厚生労働省
血液凝固異常症等に関する研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	800,000	委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	五野 貴久	リウマチ・膠原病内科	200,000	委	厚生労働省
遺伝性骨髄不全症の登録システムの構築と診断基準・重症度分類・診断ガイドラインの確立に関する研究	山口 博樹	血液内科	500,000	委	厚生労働省
難治性聴覚障害に関する調査研究	松延 毅	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	300,000	委	厚生労働省
移行期JIAを中心としたリウマチ性疾患における患者の層別化に基づいた生物学的製剤棟の適正仕様に資する研究	檜崎 秀彦	小児科	100,000	委	厚生労働省
自己免疫性自律神経障害の全国調査、診断基準策定、国際的な総意形成	岩切 勝彦	消化器・肝臓内科	60,000	委	厚生労働省
自己免疫性自律神経障害の全国調査、診断基準策定、国際的な総意形成	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	60,000	委	厚生労働省
自己免疫性自律神経障害の全国調査、診断基準策定、国際的な総意形成	伊藤 保彦	小児科	60,000	委	厚生労働省
統合レジストリによる多発性筋炎／皮膚筋炎関連間質性肺疾患の個別化医療基盤の構築	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	3,640,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
低周波振動刺激による創傷治癒評価(動物実験モデル)及び医療機器実用化支援(PMDA・薬務課等相談)及び低周波振動刺激による遺伝子発現およびタンパク質発現変化の解析	高田 弘弥	形成外科・再建外科・美容外科	2,600,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
破裂脳動脈瘤によるくも膜下出血に対する開頭クリッピング術と並行した組織型プラスミノゲンアクチベータによる脳槽血腫除去療法の有効性と安全性に関する探索的研究のプロトコル作成	亦野 文宏	脳神経外科	1,560,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
急性期脳梗塞に対する血管内治療の適応時間拡大を目的とした多施設共同ランダム化比較研究	木村 和美	脳神経外内科	1,885,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
「利活用を目的とした日本疾患バイオバンクの運営・管理」	山口 博樹	血液内科	24,750,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

計111件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名	出版年月等	論文種別
1	Masae Iwasaki, Hailin Zhao, Cong Hu e al.	緩和ケア科	The differential cancer growth associated with anaesthetics in a cancer xenograft model of mice: mechanisms and implications of postoperative cancer recurrence	Cell Biol Toxicol .	2023年8月	Original Article
2	Yoshiyuki Matsumoto, Ryuta Nakae, Tetsuro Sekine, et al	救命救急科	Rapidly progressive cerebral atrophy following a posterior cranial fossa stroke: Assessment with semiautomatic CT volumetry	Acta Neurochirurgica	2023年6月	Original Article
3	Kaoru Namatame, Yutaka Igarashi, Ryuta Nakae, et al	救命救急科	Cerebral edema associated with diabetic ketoacidosis: Two case reports	Acute Medicine Surgery	2023年6月	Case report
4	Nodoka Miyake, Yutaka Igarashi, Ryuta Nakae, et al	救命救急科	Ventilator management and risk of air leak syndrome in patients with SARS-CoV-2 pneumonia: a single-center, retrospective, observational study	BMC Pulmonary Medicine	2023年7月	Original Article
5	Yoshito Ishiki, Toru Takiguchi, Shiei Kim, et al	救命救急科	Delayed stomach necrosis in a patient with injured celiac artery branches after penetrating abdominal trauma	Trauma Case Reports	2023年8月	Case report
6	Yoshiyuki Matsumoto, Ryuta Nakae, Fumihiro Matano, et al	救命救急科	A Case of Ruptured Carotid Traumatic Blood Blister-like Aneurysm	NMC Case Report Journal	2023年9月	Case report
7	Naoki Tominaga, Toru Takiguchi, Tomohisa Seki, et al	救命救急科	Factors associated with favourable neurological outcomes following cardiopulmonary resuscitation for out-of-hospital cardiac arrest: A retrospective multi-centre cohort study	Resuscitation Plus	2024年2月	Original Article
8	Satoshi Wakita	血液内科	Mutational analysis of DNMT3A improves the prognostic stratification of patients with acute myeloid leukemia	Cancer Sci.	2023年4月	Original Article
9	Susumu Takeuchi	呼吸器内科	Standard versus low-dose nab-paclitaxel in previously treated patients with advanced non-small cell lung cancer: A randomized phase II trial (JMTO LC14-01).	Cancer Med.	2023年4月	Original Article
10	Namiko Taniuchi	呼吸器内科	Usefulness of simultaneous impulse oscillometry and spirometry with airway response to bronchodilator in the diagnosis of asthmatic cough.	J Asthma.	2023年4月	Original Article
11	Akihiko Miyanaga	呼吸器内科	A Phase I/II Study of Necitumumab Plus Pembrolizumab, Nab-Paclitaxel, and Carboplatin for Previously Untreated Advanced Squamous Non-Small Cell Lung Cancer Study: (NEJ048A/NEXUS)	Clin Lung Cancer.	2023年6月	Original Article
12	Yang Yunchu	呼吸器内科	Integrative Analysis of Ferroptosis-Related Genes in Small Cell Lung Cancer for the Identification of Biomarkers and Therapeutic Targets	Front Biosci	2023年6月	Original Article
13	Shinji Nakamichi	呼吸器内科	Lower optimal dose of amrubicin for relapsed small-cell lung cancer: a retrospective study	Int J Clin Oncol.	2023年7月	Original Article
14	Kakeru Hisakane	呼吸器内科	Platinum-combination chemotherapy with or without immune-checkpoint inhibitor in patients with postoperative recurrent non-small cell lung cancer previously treated with adjuvant platinum-doublet chemotherapy: A multicenter retrospective study	Thorac Cancer.	2023年7月	Original Article
15	Takehiro Tozuka	呼吸器内科	Osimertinib early dose reduction as a risk to brain metastasis control in EGFR-mutant non-small cell lung cancer	Cancer Med.	2023年9月	Original Article

16	Yuto Terashima	呼吸器内科	Predictive Impact of Diffuse Positivity for TTF-1 Expression in Patients Treated With Platinum-Doublet Chemotherapy Plus Immune Checkpoint Inhibitors for Advanced Nonsquamous NSCLC	JTO Clin Res Rep.	2023年9月	Original Article
17	Miwako Omori	呼吸器内科	Carboplatin and weekly paclitaxel in combination with bevacizumab for the treatment of advanced non-small cell lung cancer complicated by idiopathic interstitial pneumonias: A feasibility study	Respir Investig.	2023年9月	Original Article
18	Yang Yunchu	呼吸器内科	Exploring effective biomarkers and potential immune related gene in small cell lung cancer.	Sci Rep.	2024年3月	Original Article
19	Takuma Iwai	消化器外科	Accurately diagnosing abdominal emergencies_Diagnosis of strangulated bowel obstruction using blood DNA-degrading enzyme activity	Impact	2023年4月	Original Article
20	Tetsuya Shimizu,Masato Yoshioka,Akira Matsushita,et al.	消化器外科	Esophagogastric varix caused by extrahepatic portal vein obstruction with essential thrombocythemia: A case report	J Nippon Med Sch.	2023年8月	Case report
21	Junji Ueda,Yasuhiro Mamada,Nobuhiko Taniai et al.	消化器外科	Evaluation of splenic infarction ratio and platelet increase ratio after partial splenic artery embolization	J Int Med Res.	2023年8月	Case report
22	Tetsuya Shimizu,Masato Yoshioka,Akira Matsushita,et al.	消化器外科	Causes and Management of Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography-Related Perforation: A Retrospective Study	J Nippon Med Sch.	2023年8月	Original Article
23	Takahiro Murokawa,Shinya Sakamoto,Motoyasu Tabuchi et al.	消化器外科	Favorable Outcome of Repeated Salvage Surgeries for Rare Metastasis to the Ligamentum Teres Hepatis and the Upper Abdominal Wall in a Stage IV Gastric Cancer Patient	Acta Med Okayama.	2023年10月	Case report
24	Takuma Iwai,Tetsuya Shimizu,Takeshi Yamada et al.	消化器外科	Devascularization for peristomal varices A video vignette	Asian J Surg.	2023年10月	Letter
25	Goro Takahashi,Akihisa Matsuda,Takeshi Yamada et al.	消化器外科	Successful management of malignant colovesical fistula using covered colonic self-expanding metallic stent: a case report	Surg Case Rep.	2023年11月	Case report
26	Tetsuya Shimizu,Masato Yoshioka,Youichi Kawano,et al.	消化器外科	Modified Hassab's operation and endoscopic variceal ligation for esophagogastric varices caused by extrahepatic portal vein obstruction with JAK2V617F-mutated myeloproliferative neoplasm:A case report	Portal Hypertension	2023年11月	Case report
27	Takeshi Yamada,Hideki Endo,Hiroshi Hasegawa et al.	消化器外科	Presurgical mild anemia is a risk factor for severe postoperative complications of rectal cancer surgery: A Japanese nationwide retrospective cohort study	Annals of Gastroenterological Surgery	2024年1月	Original Article
28	Tetsuya Shimizu,Hiroshi Yoshida,Nobuhiko Taniai, et al.	消化器外科	Clinical features of extrahepatic portal vein obstruction:Myeloproliferative neoplasms eliminate hypersplenic hematologic changes in extrahepatic portal vein obstruction	Intractable Rare Dis Res.	2024年1月	Case report
29	Toshimitsu Miyasaka,Takeshi Yamada,Kay Uehara,et al.	消化器外科	Pks-positive Escherichia coli in tumor tissue and surrounding normal mucosal tissue of colorectal cancer patients	Cancer Sci.	2024年1月	Original Article
30	Tetsuya Shimizu,Masato Yoshioka,Junji Ueda,et al.	消化器外科	Stenting of Inferior Right Hepatic Vein in a Patient with Budd-Chiari SyndromeA Case Report	J Nippon Med Sch.	2024年2月	Case report
31	Junji Ueda,Yasuhiro Mamada,Nobuhiko Taniai et al.	消化器外科	Distribution of Splenic Arterial Flow and Segmental Spleen Volume for Partial Splenic Arterial Embolization	J Nippon Med Sch.	2024年2月	Case report
32	Tomori Yuji,Kodera Norie,Nanno Mitsuhiko,et.al	整形外科・リウマチ外科	Minimal Invasive Corrective Osteotomy with the Ilizarov Mini-Fixator for Malunited Fractures of Proximal Phalanges in Adolescence: Report of Three Cases and a Review of the Literature	J Nippon med Sch.	2023年4月	Case report
33	Tomori Yuji,Nanno Mitsuhiko,Majima Tokifumi	整形外科・リウマチ外科	Clinical Results of Closed Reduction and Percutaneous Pinning for Gartland Type II Flexion-Type Supracondylar Humeral Fractures in Children: Report of Three Cases	J Nippon med Sch.	2023年6月	Case report

34	Ono Koichiro, Fukuhara Daiuke, Nagahama Ken, et al.	整形外科・リウマチ外科	Percutaneous Endoscopic Transforaminal Lumbar Interbody Fusion (PETLIF): Current Techniques, Clinical Outcomes, and Narrative Review	J Clin Med	2023年8月	Review
35	Watanabe Hiroshi, Murase Kohei, Dongwook Kim, et al.	整形外科・リウマチ外科	A posterior tibial slope angle over 12 degrees is critical to epiphyseal fracture of the proximal tibia: Three-dimensional finite element analysis	Heliyon	2023年8月	Original Article
36	Kitagawa Tsunemi, Kitagawa Yasuyuki, Aoyagi Yoichiro, et al.	リハビリテーション科	Risk of Pathological Fracture and Paralysis during Rehabilitation for Patients with Bone Metastases: A Questionnaire-Based Study	J Nippon med Sch.	2023年9月	Original Article
37	Oshima Yasushi, Majima Tokifumi	整形外科・リウマチ外科	Diagnostic performance of advanced tomosynthesis in patients with metal devices in the affected knee: a case report	J Nippon med Sch.	2024年1月	Case report
38	Iateno Amane, Nogami Tsuyoshi, Sakayori Takeshi, et al.	精神神経科	Depression as a prodromal symptom of neurodegenerative diseases.	J Nippon Med Sch	2023年4月	Review
39	Hirayama H, Matsuda N, Takagi G, et al.	総合診療科	Multiple cardiac metastases of pulmonary pleomorphic carcinoma.	BMJ Case Rep.	2023年10月	Case report
40	Naoto Matsuda 1, Hiroaki Wakakuri 1, Kazuyuki Uehara, et al.	総合診療科	A Case of Fever, Impaired Consciousness, and Psychosis Caused by Nitrous Oxide Abuse and Misdiagnosed as Acute Meningitis	J Nippon Med Sch.	2023年11月	Case report
41	Mototsugu Nagao, Jun Sasaki, Kyoko Tanimura-Inagaki, et al.	糖尿病・内分泌代謝内科	Ipragliflozin and sitagliptin differentially affect lipid and apolipoprotein profiles in type 2 diabetes: the SUCRE study	Cardiovascular Diabetology (オンライン)	2024年2月	Original Article
42	Izumi Fukuda	糖尿病・内分泌代謝内科	Immune Checkpoint Inhibitors and Associated Pituitary Dysfunctions: A Mini-Review	Journal of Nippon Medical School	2023年4月	Review
43	Yuji Yamaguchi, Kyoko Tanimura-Inagaki, Izumi Fukuda, et al.	糖尿病・内分泌代謝内科	Early effects of insulin therapy on cholesterol synthesis and absorption markers in patients with type 2 diabetes	Clinical Nutrition Open Science (オンライン)	2023年4月	Original Article
44	Haruki Akasu, Tomoo Jikuzono, Mami Matsui et al.	内分泌外科	Ultrasonographic Detective Flow Imaging for Evaluating Parathyroid Adenoma in Patients with Primary Hyperparathyroidism	J Nippon Med Sch	2024年2月	Original Article
45	Takehiro Katano, Satoshi Suda, Tomohiro Ohta, et al.	脳神経内科	Regular pulse checks for patients with non-cardioembolic stroke in rehabilitation hospitals to improve recognition and detection of atrial fibrillation (the ESCORT study): protocol for a prospective multicenter observational study	Frontiers in Neurology	2023年8月	Others
46	Kentarou Suzuki, Takehiro Katano, Sinichiro Numao, et al.	脳神経内科	The effect of asymptomatic intracranial hemorrhage after mechanical thrombectomy on clinical outcome.	Journal of the Neurological Sciences	2024年2月	Original Article
47	Kentarou Suzuki, Yuji Matsumaru, Masataka Takeuchi, et al.	脳神経内科	□ The impact of SAH finding on CT to the clinical outcome after mechanical thrombectomy for large vessel occlusion.	Journal of the Neurological Sciences	2023年10月	Original Article
48	Kentarou Suzuki, David Liebeskind, Yuji Nishi, et al.	脳神経内科	A differential detailed diffusion-weighted imaging-ASPECTS for cerebral infarct volume measurement and outcome prediction.	International Journal of Stroke	2023年12月	Original Article
49	Masahiro Koen, Yoshiaki Kubota, Miwa Tokita, et al.	循環器内科	Relationship of maximum walking speed with peak oxygen uptake and anaerobic threshold in male patients with heart failure	Heart Vessels	2023年11月	Original Article
50	Kakeru Ishihara, Yoshiaki Kubota, Junya Matsuda, et al.	循環器内科	Predictive Factors for Decreasing Left Ventricular Ejection Fraction and Progression to the Dilated Phase of Hypertrophic Cardiomyopathy	J Clin Med	2023年8月	Original Article
51	Watanabe Yukihiro, Kubota Yoshiaki, Nishino Takuya, et al.	循環器内科	Utility of fractional excretion of urea nitrogen in heart failure patients with chronic kidney disease	ESC Heart Failure	2023年5月	Original Article
52	Watanabe Yukihiro, Yoshikawa Tsutomu, Isogai Toshiaki, et al.	循環器内科	Impact of hypoalbuminemia on in-hospital mortality in patients with takotsubo syndrome: A multicenter registry of the Tokyo cardiovascular care unit network	Journal of Cardiology	2023年10月	Original Article

53	Watanabe Yukihiro, Tara Shuhei, Nishino Takuya, et al.	循環器内科	Impact of Red Blood Cell Transfusion on Subsequent Cardiovascular Events in Patients with Acute Heart Failure and Anemia	International Heart Journal	2024年3月	Original Article
54	Hiroshige Murata	循環器内科	Electrophysiological and Histopathological Characteristics of Ventricular Tachycardia Associated With Primary Cardiac Tumors	JACC Clinical Electrophysiology	2024年1月	Original Article
55	Hidemasa Saito	放射線科	Efficacy of endovascular treatment for completely occlusive acute-subacute portal and mesenteric vein thrombosis with severe complications in patients without cirrhosis.	Japanese journal of radiology	2023年5月	Original Article
56	Tatsuo Ueda	放射線科	Endovascular Treatment for Acute Portal Vein Thrombosis	Interventional Radiology	2024年3月	Review
57	Tatsuo Ueda	放射線科	Kinking of the Aortic Body Contralateral Leg due to Twisting Force in an Alto Endograft	Journal of Vascular and Interventional Radiology	2024年3月	Case report
58	Mami Taniuchi, Masato Yanagi, Tomonari Kiriyaama	泌尿器科	Primary leiomyoma of the bladder radiologically mimicking a retroperitoneal tumor – a case report.	The journal of medical investigation	2023年12月	Case report
59	Hayato Takeda, Jun Akatsuka, Endo Yuki	泌尿器科	Long-Term Oncological Outcomes for Histologically Confirmed High-Risk Prostate Cancer.	Journal of Nippon Medical School	2023年5月	Original Article
60	Jun Akatsuka, Go Kimura, Akifumi Katsu, et al.	泌尿器科	A case of marked rectal stenosis due to Douglas' pouch metastasis of renal pelvic carcinoma successfully treated with salvage enfortumab vedotin: correlation between serum KL-6 levels and tumor response.	IJU case reports	2023年11月	Case report
61	Hiroya Hasegawa, Jun Akatsuka, Shogo Imai	泌尿器科	A case of renal abscess mimicking metastatic lesion in a patient with lung carcinosarcoma.	Journal of Nippon Medical School	2023年12月	Case report
62	Yuki Endo, Jun Akatsuka, Hayato Takeda	泌尿器科	Real-World Insights into Efficacy and Safety of Enfortumab Vedotin in Japanese Patients with Metastatic Urothelial Carcinoma: Findings, Considerations, and Future Directions.	Current oncology (Toronto, Ont.)	2024年1月	Original Article
63	Okamoto Fumiki	眼科	Changes in Metamorphopsia in Patients Undergoing Treatment for Vitreoretinal Disorders	J Nippon Med Sch.	2024年3月	Original Article
64	Matano F, Murai Y, Nounaka Y, et al	脳神経外科	Experience Using Gentian Violet-Free Dyes for Tissue Visualization.	J Neurol Surg A Cent Eur Neurosurg.	2023年9月	Original Article
65	Nounaka Y, Murai Y, Shirokane K, et al	脳神経外科	Spontaneous middle cerebral artery dissection: a series of six cases and literature review.	Neurosurg Rev.	2023年7月	Review
66	Nakata J, Yamamoto T, Saku K et al,	心臓血管集中治療科	Mechanical circulatory support in cardiogenic shock.	J Intensive Care	2023年11月	Review
67	Hosokawa Y, Yamamoto T, Tara S,	心臓血管集中治療科	Comparison of Percutaneous Coronary Intervention Procedures and Outcomes for Recent and Acute ST-Elevation Myocardial Infarction	Int Heart J	2023年5月	Original Article
68	Aratani Sae	腎臓内科	Recent Advances in Senolysis for Age-Related Diseases	Physiology (Bethesda)	2023年9月	Review
69	Goto Osamu, Iwakiri Katsuhiko	消化器・肝臓内科	Excision and closure: Challenge to surgery by endoscopists.	Dig Endosc.	2024年2月	Others
70	Goto Osamu	消化器・肝臓内科	How should we evaluate the efficacy of endoscopic closure appropriately? A black box between interventions and outcomes.	Endoscopy.	2023年8月	Others

71	Ochi T, Yoshida A, Takahashi O, et al	乳腺科	Prognostic effect of subsequent childbirth after the diagnosis of breast cancer using propensity score matching analysis.	Breast Cancer	2023年5月	Original Article
----	---------------------------------------	-----	---	---------------	---------	------------------

計71件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合には、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
~					

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 研究の種類、審査委員会と窓口、研究内容と審査機関、臨床研究実施の流れ、研究計画書作成ならびに申請時の注意事項、研究計画の事前登録、学外での研究計画書の審査依頼について、相談窓口	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの対象、委員会の構成、審議事項 利益相反マネジメントのプロセス、臨床研究に関する取り扱い	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年38回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 倫理委員会への申請過程でよくある質問	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

1 研修の内容  
当院の専門研修プログラムは、2年間の必修初期臨床研修の終了後、さらに臨床医学に関する知識と技能を向上させ、より専門的な臨床研修を行うためのものである。平成30年度より、新たな専門医制度が始まり、基本領域学会及び日本専門医機構の審査・認定を受けた専門研修プログラムに基づき、各領域で専門医取得や大学院進学等につながる多彩な研修コースを提示している。日本医科大学付属病院、武蔵小杉病院、多摩永山病院、千葉北総病院の四つの付属病院において、それぞれの特色を生かした診療体制の中でローテーションが可能であり、高度な医療、先進医療の研修を可能にしている。愛と研究心を有し、質の高い医療を求める国民のニーズに応える人材の育成を目指す。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	244.8人
-------------	--------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
高木 元	総合診療科	部長	31 年	
浅井 邦也	循環器内科	部長	35 年	
木村 和美	脳神経内科	部長	38 年	
酒井 行直	腎臓内科	部長	32 年	
桑名 正隆	リウマチ科	部長	36 年	
山口 博樹	血液内科	部長	31 年	
岩切 勝彦	消化器・肝臓内科	部長	38 年	
岩部 真人	内分泌代謝内科	部長	21 年	
清家 正博	呼吸器内科	部長	32 年	
高木 元	老年内科	部長	31 年	
舘野 周	精神科	部長	30 年	
植田 高弘	小児科	部長	35 年	
佐伯 秀久	皮膚科	部長	33 年	
石川 真士	麻酔科	部長	17 年	
林 宏光	放射線科	部長	37 年	
吉田 寛	消化器外科	部長	38 年	
武井 寛幸	乳腺外科	部長	38 年	
杉谷 巖	内分泌外科	部長	35 年	
石井 庸介	心臓血管外科	部長	31 年	
白田 実男	呼吸器外科	部長	30 年	
村井 保夫	脳神経外科	部長	31 年	
岡本 史樹	眼科	部長	30 年	
大久保 公裕	耳鼻咽喉科	部長	40 年	
鈴木 俊治	産婦人科	部長	36 年	
近藤 幸尋	泌尿器科	部長	39 年	
眞島 任史	整形外科	部長	40 年	
小川 令	形成外科	部長	25 年	

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
横堀 将司	救急科	部長	25 年	
高木 元	漢方内科	部長	31 年	
大橋 隆治	病理診断科	部長	32 年	
久野 彰子	歯科	部長	31 年	
青柳 陽一郎	リハビリテーション科	部長	31 年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

(1)全職員向け

医療機器安全管理研修（除細動器）

(2)看護職員向け

1)人工呼吸器管理とウイニグプロトコル

2) 急性期・周術期の鎮痛と鎮静管理

3) SEWスコアを用いた急変予測と対応

4) 急性期脳卒中患者の病態生理と治療戦略

5) うつ状態の心理とケア 6) MDRPUの予防とケア

7) 周術期管理

8) 耳鼻科疾患と嚥下機能の評価

9) アブレーション治療の適応と管理

10) 大動脈解離の対応

11) 整形外科の術後管理

12) 不整脈のデバイス治療と管理

13) 誤嚥性肺炎の予防と口腔ケア

14) 災害発生時の対応（CSCATTT）

15) 消化器疾患の検査と治療

16) がん放射線療法に必要な基本知識等

17) 重症患者と酸素療法

18) 胸腔ドレナージの管理

- 19) 気管吸引と気道管理
- 20) 呼吸理学療法とホジショニング
- 21) 口腔ケア OHAT
- 22) 口腔ケアのガイドライン
- 23) 脳卒中患者のと嚥下障害
- 24) 不妊治療・AYA世代の妊孕性温存治療
- 25) 脊椎手術
- 26) 肝臓・胆道・膵臓疾患の内科的治療
- 27) がん看護ELNEC-J
- 28) 慢性腎不全の病態と透析治療
- 29) エンゼルケアの目的と死後のご遺体の変化
- 30) がん患者のアピアランスケア
- 31) リンパ浮腫に関する基本的な知識 3
- 2) ゲノム医療の基本的知識
- 33) 乳房切除を受ける患者の看護
- 34) ゲノム医療の基本的知識 など

・研修の期間・実施回数

(1)2023年12月1日～2023年12月31日 ・1回 (Web開催)

(2)2023年4月1日～2024年3月31日 ・79回

・研修の参加人数

(1)1,764名

(2)2,451名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

医療機器安全管理研修（医療機器の安全な取扱い）

・研修の期間・実施回数

2023年12月19日～2024年1月19日 ・1回（Web開催）

・研修の参加人数

1,736名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

看護職員向け

- 1) 人工呼吸器管理とウイニグプロトコル
- 2) 急性期・周術期の鎮痛と鎮静管理
- 3) SEWスコアを用いた急変予測と対応
- 4) 急性期脳卒中患者の病態生理と治療戦略
- 5) うつ状態の心理とケア 6) MDRPUの予防とケア
- 7) 周術期管理
- 8) 耳鼻科疾患と嚥下機能の評価
- 9) アブレーション治療の適応と管理
- 10) 大動脈解離の対応
- 11) 整形外科の術後管理
- 12) 不整脈のデバイス治療と管理
- 13) 誤嚥性肺炎の予防と口腔ケア
- 14) 災害発生時の対応（CSCATTT）
- 15) 消化器疾患の検査と治療
- 16) がん放射線療法に必要な基本知識等

- 17) 重症患者と酸素療法
- 18) 胸腔ドレナーズの管理
- 19) 気管吸引と気道管理
- 20) 呼吸理学療法とホジショニング
- 21) 口腔ケア OHAT
- 22) 口腔ケアのガイドライン
- 23) 脳卒中患者のと嚥下障害
- 24) 不妊治療・AYA世代の妊孕性温存治療
- 25) 脊椎手術
- 26) 肝臓・胆道・膵臓疾患の内科的治療
- 27) がん看護ELNEC-J
- 28) 慢性腎不全の病態と透析治療
- 29) エンゼルケアの目的と死後のご遺体の変化
- 30) がん患者のアピアランスケア
- 31) リンパ浮腫に関する基本的な知識 3
- 2) ゲノム医療の基本的知識
- 33) 乳房切除を受ける患者の看護
- 34) ゲノム医療の基本的知識 など

・研修の期間・実施回数

2023年4月1日～2024年3月31日・79回

・研修の参加人数

260名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	院長 汲田 伸一郎	
管理担当者氏名	各部署長	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	電子カルテ内サーバー
		処方せん	電子カルテ内サーバー
		手術記録	電子カルテ内サーバー
		看護記録	電子カルテ内サーバー
		検査所見記録	電子カルテ内サーバー
		エックス線写真	電子カルテ内サーバー
		紹介状	電子カルテ内サーバー
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ内サーバー
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	庶務課
		高度の医療の研修の実績	各部署
		閲覧実績	庶務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	電子カルテ内サーバー
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	庶務課、薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御室	ファイル、PCによる保存管理
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療録管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	法人本部総務部、庶務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	庶務課
		職員研修の実施状況	庶務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	庶務課
管理者が有する権限に関する状況	法人本部総務部		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人本部秘書室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> 2. 現状 <input checked="" type="radio"/>
閲覧責任者氏名	院長 汲田 伸一郎
閲覧担当者氏名	庶務課 課長 樋口 憲二
閲覧の求めに応じる場所	閲覧室
閲覧の手続の概要 閲覧についての書類を受取後、対応	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延 2 件	
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 1 件
	地方公共団体	延 1 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理に関する基本的考え方</li> <li>2. 医療に係る安全管理の組織に関する基本的事項</li> <li>3. 医療安全管理のための職員研修に関する基本的事項</li> <li>4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li> <li>5. 医療事故発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6. 当院と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>7. 患者からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>8. 高難度新規医療技術等を用いた医療の提供</li> <li>9. 未承認新規医薬品等を用いた医療の提供</li> <li>10. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ 有・無 ）</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療の安全管理の総括に関すること</li> <li>2. 医療安全管理指針及び医療安全マニュアルの策定、変更に関すること</li> <li>3. 重大な医療事故等に関する原因究明のための調査及び分析に関すること</li> <li>4. 前号の分析結果を活用した医療事故等防止法策の立案及び実施ならびに従業者への周知に関すること</li> <li>5. 医療事故等防止方策の実施状況の調査及び見直しに関すること</li> <li>6. 死亡退院事例報告の実施状況の確認及び確認結果の院長への報告ならびに従業者への研修及び指導に関すること</li> <li>7. 医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 6 条の 11 に規定する医療事故調査及び医療事故調査等支援団体に関すること</li> <li>8. 高難度新規医療技術等を用いた医療の提供に関すること</li> <li>9. 未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関すること</li> <li>10. その他医療安全管理に関すること</li> </ol>	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>①令和 5 年度 第 1 回 医療安全管理研修講演会（e ラーニング形式）  開催期間：令和 5 年 9 月 15 日～令和 5 年 10 月 31 日  演 題：BLS  講 師：医療安全管理部、院内緊急時対応ワーキング、MET チーム</p> <p>②令和 5 年度 第 2 回 医療安全管理研修講演会（e ラーニング形式）  開催期間：令和 6 年 1 月 11 日～令和 6 年 2 月 29 日  演 題：みんなの SBAR  講 師：東京海上日動</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理集中管理システム（セーフマスター）での管理</li> <li>2. 医療安全管理に関する規定（指針、ガイドライン、マニュアル）の改正</li> <li>3. 医療安全管理の手引きの改正、配布</li> <li>4. リスクマネージャー委員会（月 1 回）における改善方策周知</li> <li>5. 院内リスクアナウンス（安全情報等）の周知確認登録  （電子カルテシステム画面を利用したポータルサイト、院内 FAX 等）</li> </ol>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>せんだぎるーるぶつく（医療安全に関するハンドブック。年 1 回改訂）「当院の院内感染対策」項として提示。</p> <p>病院感染対策マニュアル（電子カルテ内ポータルサイトに掲載。随時改訂）を整備。</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>病院感染対策委員会・感染管理マネージャー会議として、月 1 回開催</p> <p>定例報告：疫学月報、ICT 活動報告、AST 活動報告、栄養科報告、感染症流行状況報告など</p> <p>その他：COVID-19 院内状況報告、耐性菌院内発生報告、感染症法関連通知等報告など</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 5 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>(1)院内感染対策研修講演会（年 2 回）：全従業員を対象。ポストテストあり。</p> <p>①「適切な手指衛生と環境整備」令和 5 年 5 月 22 日～令和 5 年 6 月 21 日（e ラーニングシステム掲載による開催）</p> <p>②「抗菌薬適正使用について」令和 5 年 10 月 24 日～令和 5 年 11 月 22 日（e ラーニングシステム掲載による開催）</p> <p>(2)抗菌薬適正使用推進研修（年 2 回）：</p> <p>①抗菌薬適正使用について」令和 5 年 10 月 24 日～令和 5 年 11 月 22 日（e ラーニングシステム掲載による開催。全従業員を対象。ポストテストあり）</p> <p>②感染症レクチャー 「深在性真菌感染症の適切な診断と抗真菌薬の適正使用について考える」令和 5 年 12 月 6 日（オンラインによる開催。内科専攻医制度委員会、臨床研修センターと協働。ポストテストあり）</p> <p>③感染症レクチャー 「内科医が知っておきたい成人・小児の発疹とその鑑別」令和 5 年 11 月 1 日（オンラインによる開催。内科専攻医制度委員会、臨床研修センターと協働。ポストテストあり）</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （☑・無）</p> <p>①感染症発生時には直ちに発生部署で感染症発生連絡書を作成し、感染対策部門に提出する。</p> <p>②ICT は報告書をもとに、現場感染対策を実施する。</p>	

・ その他の改善のための方策の主な内容：

①手指衛生状況調査（年2回）

②環境整備評価目的の環境調査（随時）

③医療関連感染サーベイランスへの参加（J-SHIPE、JANIS、私立医科大学病院感染対策協議会  
推進会議）

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>最近の他施設での医薬品関連の事故、事件の紹介。</p> <p>当院で発生した薬剤関連のインシデント報告及びインシデント発生を未然に防止するための医薬品取り扱いに関する留意点。</p> <p>薬剤部からの医薬品安全性情報、日本医療評価機構からの医薬品に関する安全性情報</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 ( 有・無 )</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>年 2 回 ( 3・9 月 ) 薬剤部、病棟、外来、医局長、薬事委員に対し、</p> <p>病棟に対しては年 4 回 ( 3・6・9・12 月 )、その実施状況についてチェックリストを用いて確認</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 ( あれば ) : なし</p> <p>未承認等の医薬品の使用事例はない。</p> <p>適応外使用については添付文書で定める用法用量を超えた濃度および投与量での注射用カリウム製剤の使用について付属病院倫理委員会に審査、承認を受け、申請した診療科に限定しオプトアウトにて情報公開を行った上で申請通り適切に使用されていることを確認している。定期的に投与後のモニタリングを行い、医薬品安全管理委員会で報告している。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>薬品情報室が厚生労働省 HP、PMDA、メーカー各社 HP、製造販売業者 HP、学術誌等で情報を収集している。</p> <p>得られた情報のうち必要と判断されたものについては医薬品を取り扱う職員を対象に以下の方法にて周知している。</p> <p>部長会、医長会 ( 院内会議 ) において説明。電子カルテの掲示板機能の活用。</p> <p>医薬品情報 ( 毎月 ) 、薬剤部ニュース ( 随時 ) を、各部署に配布。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 39 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>特定機能病院における定期研修</p> <p>2023年4月 ME 機器全般（新入職研修医、看護師）</p> <p>2023年4月 人工呼吸器（集中治療領域配属看護師）</p> <p>2023年4月 補助循環（ECMO）（高度救命救急センター医師、看護師）</p> <p>その他 10回</p> <p>2) 新しい医療機器の導入時の研修</p> <p>2023年4月 自己血回収装置（臨床工学技士）</p> <p>2023年5月 解析機能付きセントラルモニタ（看護師）</p> <p>2023年7月 超音波診断装置（臨床工学技士、放射線技師）</p> <p>その他 5回</p> <p>3) その他必要に応じた研修</p> <p>2023年4月 ベッドサイドモニタ（看護師）</p> <p>2023年4月 手術室の医療機器（手術室看護師）</p> <p>2023年4月 人工呼吸器（看護師）</p> <p>その他 15回</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 （有・無）</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>〈人工心肺関連〉9月に定期点検を実施</p> <p>〈補助循環装置〉5月～11月に各装置の定期点検を実施</p> <p>〈人工呼吸器〉4月～3月に各装置の定期点検を実施</p> <p>〈血液浄化装置関連〉4月～3月に各装置の定期点検を実施</p> <p>〈除細動器〉5月、8月、11月、2月に定期点検を実施</p> <p>〈保育器〉4月、5月、7月、10月、1月に定期点検を実施</p>	

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="checkbox"/>有・無 )</li> <li>未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば) : 特になし</li> <li>その他の改善のための方策の主な内容 :</li> </ul> <p>PMDA、JCQHC 等から発信される医療安全情報、医療機器製造および販売業者より発信される安全使用のための情報を収集し保管している。また、周知が必要な内容については医療機器の安全管理研修および Web を使用した院内への ME 部ニュースとして全体へ周知と報告をしている。医療機器の使用中のトラブルについても集計し院内勉強会などで周知をしている。</p>

(注) 前年度の実績を記入すること。

**規則第 9 条の 20 の 2 第 1 項第 1 号から第 13 号の二に掲げる事項の実施状況**

医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>責任者の資格 ( <input checked="" type="checkbox"/>医師・歯科医師 )</li> <li>医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</li> </ul> <p>医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>●医療安全管理責任者は、医療安全管理部、医療に係る安全管理のための委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者を統括する</p>	
専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ( 5 名 ) ・無
<p>医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>医療安全管理委員会の下部組織として、医薬品安全管理委員会を設置し、医薬品安全管理責任者 (薬剤部部長) が委員長を務めている。委員には医療安全管理者も含まれており、院内の医薬品に係る安全使用と事故防止及び適切な管理を行うため必要な対応を行っている。尚、委員会での決議は随時、医薬品安全管理責任者により医療安全管理委員会に報告を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</li> </ul> <p>医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成、従業員に対する医薬品の安全使用のための研修の実施、医薬品の業務手順書に基づく業務の実施、医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集、その他医薬品の安全確保を目的とした改善のための方策の実施</p>	

<p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認新規医薬品等の使用状況の把握等を適切に実施するための担当者を薬剤部病棟部門長と定め、病棟薬剤師が実務を担当している。</p> <p>未承認新規医薬品等の使用予定の情報を入手した際は、担当医師に未承認新規医薬品等を用いた医療の実施に関する院内での手続きについて情報提供をしている。</p> <p>・担当者の指名の有無 <input checked="" type="checkbox"/>・無</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部，職種：薬剤師、伊勢 雄也) (所属：薬剤部，職種：薬剤師、三浦 義彦)</p> <p>(所属：薬剤部，職種：薬剤師、輪湖 哲也)</p>	
医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/>・無 )</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： インフォームド・コンセントガイドラインに基づいて監査項目を設置し、定期的に質的・量的監査を実施している。順守率の低い項目に対し、インフォームド・コンセント委員会で周知のうえ、改善に繋げている。</p>	

診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>量的監査は退院全件に対して実施しており、入院診療計画書、侵襲的治療の説明と同意、手術、退院時要約等の記録に対して、約 40 項目を監査。</p> <p>質的監査は月間約 40 件実施しており、診断根拠、入退院の説明や侵襲的治療の説明と同意、経過記録等の記録に対して、約 50 項目を監査。診療情報管理士による一次監査、該当診療科の上級医による二次監査、診療録管理室委員による三次監査を実施。また、担当医による自己点検も実施。</p> <p>監査結果については担当医師、委員会、院長へ報告を実施しており、適宜改善指導を実施。</p>	
医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>所属職員：専従（13）名、専任（3）名、兼任（16）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（2）名、兼任（8）名</p> <p>うち薬剤師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（1）名</p> <p>うち看護師：専従（5）名、専任（0）名、兼任（3）名</p> <p>(注) 報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること</p>	

・活動の主な内容：

1. 医療に係る安全管理のための指針の整備に関すること
2. 医療に係る安全管理のための委員会の開催に関すること
3. 医療に係る安全管理のための職員研修の実施に関すること
4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の策定に関すること
5. その他医療に係る安全管理のための事務一般に関すること
6. 院内の環境・設備ならびに職員の待遇に関する意見や苦情の対応に関すること
7. 医療に係る安全管理に関する相談の対応に関すること
8. 医療事故の渉外に関すること
9. 個人情報の適正管理に関すること
10. 個人情報の紛失、盗難、漏洩の防止に関すること
11. 個人情報の紛失、盗難、漏洩時の対応に関すること

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（10件）、及び許可件数（10件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）

・活動の主な内容：

1. 高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関する申請手続きに関すること（各診療科から提出される申請書類のチェック等）

2. 医療提供の適否決定に関すること（委員会での意見を確認のうえ、適否について決定し、提供にあたっての条件等を定める）

3. 医療提供後の確認に関すること（適否の決定後、提供を認めた医療の報告対象の全症例について適切に業務が実施されたか否かを確認のうえで院長報告を行い、必要に応じて実施体制の見直しを行う）

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
  1. 未承認新規（適用外は対象外）医薬品・医療機器等を用いた医療の申請手続きに関すること（各診療科から提出される申請書類のチェック等）
  2. 医療提供の適否決定に関すること（委員会での意見を確認のうえ、適否について決定し、提供にあたっての条件等を定める）
  3. 医療提供後の確認に関すること（適否の決定後、提供を認めた医療の報告対象の全症例について適切に業務が実施されたか否かを確認のうえで院長報告を行い、必要に応じて実施体制の見直しを行う）
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 773 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 281 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容  
医療安全管理委員会は、上記報告が適切に行われているかを確認し、その結果を院長に報告している。仮に報告が不十分であれば、必要な指導等を行っている。

他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：東京医科大学病院）・無）
  - ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：東京医科大学病院）・無）
  - ・技術的助言の実施状況
- 自己評価票の作成、自己評価票に対する確認事項・質問事項を事前提出のうえ、実施訪問形式で実施したところ、外来車椅子トイレの開閉が手動式となっているため、自動式に変更した方が望ましいの

技術的助言があり、患者サービス向上の観点から、早急な対応を検討している。

当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

(設置状況等)

・窓口の名称：患者相談窓口

・患者相談窓口の設置：平成15年4月1日

・責任者の氏名及び職種：医療安全管理部 部長（医師）

・対応部署：患者支援センター、医療安全管理部 患者相談室

・受付時間：月～金 8:30～16:30、土：8:30～15:30

・規約の整備状況：日本医科大学付属病院 患者相談窓口運営規則（平成17年4月1日施行）

(活動状況)

・患者への明示方法：院内3ヶ所（本館2階正面玄関入口、東館1階玄関入口、本館1階患者支援センター入口）の他、入院案内パンフレット及びホームページでも明示している。

職員研修の実施状況

・研修の実施状況

未承認新規医薬品等を用いた医療について

[実施時期]令和6年3月14日 医療安全管理部 未承認医薬品等管理室 室長 伊勢雄也

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 管理者

公益財団法人 日本医療機能評価機構 2023年度特定機能病院管理者研修

修了日：2023年11月20日

2. 医療安全管理責任者

公益財団法人 日本医療機能評価機構 2023年度特定機能病院管理者研修

修了日：2024年1月9日

3. 医薬品安全管理責任者

公益財団法人 日本医療機能評価機構 2023 年度特定機能病院管理者研修

修了日：2023 年 11 月 20 日

4. 医療機器安全管理責任者

公益財団法人 日本医療機能評価機構 2023 年度特定機能病院管理者研修

修了日：2023 年 11 月 20 日

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

令和 4 年 5 月 19 日～令和 4 年 5 月 21 日

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

令和 5 年 2 月 6 日 当院ホームページにて公表

・ 評価を踏まえ講じた措置

特記事項なし

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<p><b>基準の主な内容</b></p> <p>日本医科大学付属病院長選任規程 令和元年11月1日施行 令和5年4月1日改訂</p> <p>任期、選定の基準、候補者選考の事由及び時期、選考委員会の設置、構成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul> <p>学校法人のホームページに掲載</p>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul> <p>学校法人のホームページに掲載</p>	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
鈴木 秀典	日本医科大学	○	病院長選任規程第8条第1項第1号：理事会において選任された理事	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
弦間 昭彦	日本医科大学		病院長選任規程第8条第1項第1号：理事会において選任された理事	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
鈴木 浩悦	日本医科大学		病院長選任規程第8条第1項第1号：理事会において選任された理事	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
瓜田 純久	東邦大学医療センター 大森病院		病院長選任規程第8条第1項第2号：理事長が本法人と特別の関係がない者の中から推薦し、理事会において承認された者	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
須賀 晃一	早稲田大学		病院長選任規程第8条第1項第2号：理事長が本法人と特別の関係がない者の中から推薦し、理事会において承認された者	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無			<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>病院の運営方針、中期計画、予算及び決算に関する事項</p> <p>その他病院の管理運営に関する事項</p> <p>人事異動報告、医療収入報告、医薬品情報報告、各種委員会における審議内容の報告</p> <p>その他院長が必要と認める事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>各部署長が出席し、審議内容を職員へ周知している。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>）</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
汲田 伸一郎	○	医師	院長
近藤 幸尋		医師	副院長
吉田 寛		医師	副院長
岩切 勝彦		医師	副院長
山口 博樹		医師	副院長
鈴木 智恵子		看護師	副院長
高木 元		医師	総合診療科部長
浅井 邦也		医師	循環器内科部長
木村 和美		医師	脳神経内科部長
酒井 行直		医師	腎臓内科部長
桑名 正隆		医師	リウマチ・膠原病内科部長
岩部 真人		医師	糖尿病・内分泌代謝内科部長
清家 正博		医師	呼吸器内科部長
笠原 寿郎		医師	化学療法科部長
高木 元		医師	老年内科部長
舘野 周		医師	精神神経科部長
植田 高弘		医師	小児科部長
佐伯 秀久		医師	皮膚科部長
石川 真士		医師	麻酔科・ペインクリニック部長
岩崎 雅江		医師	緩和ケア科部長
林 宏光		医師	放射線科部長
前林 勝也		医師	放射線治療科部長
武井 寛幸		医師	乳腺科部長
杉谷 巖		医師	内分泌外科部長

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
臼田 実男		医師	呼吸器外科部長
石井 庸介		医師	心臓血管外科部長
村井 保夫		医師	脳神経外科部長
岡本 史樹		医師	眼科部長
大久保 公裕		医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科部長
鈴木 俊治		医師	女性診療科・産科部長
眞島 任史		医師	整形外科・リウマチ外科部長
小川 令		医師	形成外科・美容外科・再建外科部長
新井 正徳		医師	救急診療科部長
横堀 将司		医師	救命救急科部長
高木 元		医師	東洋医学科部長
山田 岳史		医師	遺伝診療科部長
眞々田 裕宏		医師	がん診療科部長
山本 剛		医師	心臓血管集中治療科部長
大橋 隆治		医師	病理診断科部長
間瀬 大司		医師	外科系集中治療科部長
青柳 陽一郎		医師	リハビリテーション科部長
久野 彰子		歯科医師	口腔科（周術期）部長
寺崎 泰弘		医師	病理部部長
柏木 哲也		医師	血液浄化療法センターセンター長
後藤 修		医師	内視鏡センターセンター長
遠藤 康実		医師	臨床検査部部長
高木 元		医師	高気圧酸素治療室室長
由井 俊輔		医師	輸血部部長
大塚 俊昭		医師	臨床研究総合センターセンター長
八島 正明		医師	保険診療指導部部長
三井 亜希子		医師	腎クリニック所長
藤田 和恵		医師	医療安全管理部感染制御室室長
伊勢 雄也		薬剤師	薬剤部部長
山本 臣生		事務職員	事務部部長
樋口 憲二		事務職員	事務部副部長
水鳥 美幸		事務職員	事務部医事課長

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- 公表の方法
- 規程の主な内容

管理者は、病院の業務を統括し、所属職員を指揮監督すると共に、病院全般の円滑な運営に当たる。

予算承認について、支出に拘わる案件の予算承認限度額を定める。

- 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

#### 【職名】副院長

手術室運営に関する事、収支改善に関する事、医療経費削減に関する事、医療連携に関する事、医師の負担軽減に関する事、臨床研修センター運営に関する事、医療安全・感染対策に関する事、経営戦略に関する事、看護部門に関する事、患者安全管理に関する事、病棟稼働率・平均在院日数等の効率化に関する事

- 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

日本私立医科大学協会病院事務長会議、病院庶務研究会等に出席している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況に応じて自ら確認を実施する。</p> <p>(2) 必要に応じ、理事長又は院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講じるよう意見を表明する。</p> <p>(3) 上記業務について、その結果を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>学校法人のホームページへ掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
長島 隆	東洋大学	○	哲学、倫理学を専門とし、医療の公共性や医療倫理、医療現場における情報問題と情報倫理等に関する論文等を発表している。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
小泉 博明	文京学院大学		日本思想や生命倫理教育を専門とし、「病における人間学」、「病者への眼差し」等をキーワードに、多数の論文を発表している。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
豊田 郁子	NPO 法人「架け橋」		自身が医療事故で子息を亡くした経験から、患者・家族と医療者間の対話の重要性を痛感し、患者の立場を代表する者として医療安全に関わる講演活動や公的な委員を務め、NPOでは医療対話推進者の養成に携わっている。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

櫻田 晋太郎	弁護士		医療問題弁護団に所属し、医療と人権をテーマに医療事件に関する調査、交渉、訴訟事件を多く取り扱っている。また、薬害肝炎弁護団に所属し、薬害の再発防止、個別救済等の取り組みにも力を入れている。	有・無	1
近藤 幸尋	日本医科大学付属病院		若手医師の指導及び中央手術部部長としての臨床現場の経験等より、医療安全監査委員として適任である。	有・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・ 体制の整備状況及び活動内容

定期的（年1回）に管理者による病院の管理状況を確認する。

必要に応じて臨時に確認を実施する

・ 専門部署の設置の有無（  ・ 無 ）

・ 内部規程の整備の有無（  ・ 無 ）

・ 内部規程の公表の有無（ 有 ・  ）

・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況                   病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況                   原則として毎月1回理事長が招集し、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。</li> <li>・ 会議体の実施状況（ 年11回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（ 年11回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> ）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：学校法人日本医科大学 理事会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年1件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法</li></ul> <p>せんだぎる一るぶつくへの掲載、法人ホームページを用いて公益通報・相談窓口のメールアドレス等の連絡先を恒常的に職員に対して周知している。</p>